



北豊島小学校

校長室だより

第 10 号

令和6（2024）年10月10日



「やさしく豊かな心を持ち、共に学び、共に育つ 北小っ子」に！

「全国学力学習状況調査」 「すくすくテスト」の結果から



本年4月18日に、6年生を対象として国語・算数の学習状況、生活の様子や意識を調べる『全国学力・学習状況調査』が実施されました。

また、同月23日には、5・6年生を対象に、大阪府独自の『すくすくウォッチ』が実施されました。すくすくウォッチの内容は、5年生は「国語、算数、理科の学習状況」、6年生は「理科の学習状況」、5・6年生ともに教科横断型の「わくわく問題」と「児童アンケート」になります。

「わくわく問題」では、すべての教科や活動の中で大切な「課題をつかみ」「文章や図、表、グラフなどを読み取り」「話し合ったり、調べたりして、考え」「表現する」力を高めるための問題が出題されています。「児童アンケート」では、『全国学力・学習状況調査』の「児童質問紙」と同様、生活の様子や意識を調べています。

この調査結果が、本校の学力や学習状況、生活状況のすべてを示すものではありませんが、この調査結果から、今後の教育指導の在り方や本校の授業内容の改善につなげていきたいと考えています。

以下に、これらのテスト・アンケートの結果から分析された、現在の本校の5、6年生の良い点と課題点についてお知らせします。

※本文中の、テストは「6年生対象の全国学力テスト」を表しています。

【5・6年生の学習面における良い点】

1. 「学習に対して前向きな姿勢」

アンケートの「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」の質問で、肯定的な回答が多く、昨年に引き続き授業におけるノート指導や、めあて・自力解決・まとめ・ふり返りの流れが定着している結果となりました。

また、「わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている」「解答を文章で書く問題で、すべての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した」の質問で、多くの児童が肯定的に回答しました。学習に対して前向きに取り組もうとする姿勢が高まっています。日々、子どもたちが興味・関心を持てるような授業を計画し、「学びあう喜びのある授業」をテーマに取り組んでいる成果だと考えています。

2. 「ICT を活用して調べ、工夫して相手に伝える力」が育ってきている

アンケートでは、「分からないことや知りたいことがあった時、本やインターネットなどで調べている」「授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分に合った問題やドリル等に取り組むことはどれくらいありますか」「授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか」等の質問で、全国・大阪を大きく上回る肯定的な回答がありました。また、「授業で、コンピュータやタブレットを使って、プレゼンテーション資料などにまとめて発表することはどれくらいありますか」の質問でも肯定的な回答が高く、ICT 機器の効果を感じ、積極的に取り入れている成果が表れました。相手に伝える力は、ポスターや新聞づくり、タブレットでまとめる活動など、伝えたい事柄に応じて発表の形態を工夫している成果でもあります。

3. (国語)「実践的な思考力や表現力」が育っている

すくすくウォッチの「話し言葉と書き言葉の違いに関する問題」や「思慮するなどして活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかの問題」では、高い正答率でした。日頃の授業において、単なる知識の習得にとどまらず、実践的な思考力や表現力が高まっていると言えます。対話を重視した授業などにより、さらなるコミュニケーション能力の向上を目指していきます。

4. (算数)「基礎的な四則計算」の力が定着してきている

算数テストの中で、計算領域については、全国・大阪府を上回る正解率となりました。

日頃の授業で、練習問題を出題して定着を図ったり、朝の学習や宿題、アップルームなどで復習を行ったりして、計算を積み重ねてきた結果が表れました。もくもくタイム(朝学習)や、アップルーム(放課後学習)などの時間を使って、基礎基本の問題を繰り返し練習してきた成果が表れました。

5. (理科)「実生活に関連した知識」を身につけている

すくすくウォッチの理科「太陽の光を集める方法を選ぶ問題」では正答率が高く、多くの児童が正しい知識を身につけていました。知識をただ習得するだけでなく、普段の授業の中で実験や観察を通した知識を習得することで、実生活に関連した知識を身につけていると考えられます。

6. 英語に慣れ親しんでいる児童が多い

アンケート「英語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し肯定的な回答が多く、大阪府、全国の平均を大きく上回りました。1年生からの縦のつながりを意識した継続的な指導や、担任・英語推進・ALT が連携して、魅力ある授業が展開された成果が現れていると考えられます。これからも引き続きたのしく学べる授業を心がけていきます。



【5・6年生の学習面における課題点】

1. 「自分の考えをまとめて書く力」の弱さ

国語テストの「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題（記述式）」やすくすくウォッチ理科の「水は沸騰しなくても、蒸発して水蒸気となり空気中に含まれていくことを説明する問題（記述式）」で、低い正答率でした。「書く力」の弱さは、昨年度に引き続き大きな課題です。記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要です。

⇒対策：日頃の授業で、図や表、文章から捉えたことを短くまとめる活動

ポイントとなる語句を入れて、条件に合った文章を書く活動

式や答えだけではなく、自分の考えも文章で書かせる活動

説明する文章の書き方の型の指導

説明文の学習における文章構成などに目を向けさせ、事実と感想、意見とを区別して書く活動

文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導

取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする指導

2. (国語)「言葉の知識」の少なさ

すすくウォッチ国語の「文中の主語と述語の関係に注意して、述語を正しく書く問題」「主語として適切なものを選択する問題」や、「文中の修飾語と被修飾語の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する問題」など、文法に関する問題で、正答率が低い結果となりました。

⇒対策：日常の中で、主語や述語を意識させる活動

教材文の中の主語と述語を確認する活動

3. (国語)「漢字を書く力」

すすくウォッチやテストでは「日常で使うローマ字を正しく読む問題」では、高い正答率でしたが、「漢字を正しく書く問題」では、正答率が低い結果となりました。普段からタブレットを利用していることや、タイピング練習を行っていることで、読む力についてはついてきていますが、書く力は課題が見られました。

⇒対策：継続して、朝の学習や学習課題、国語の授業で漢字練習

ローマ字特有の書き方（撥音・促音・長音・くぎりの記号）

4. (算数)「図や表、グラフを読み取る力」の弱さ

図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られました。また、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することにも課題が見られました。算数に限らず、どの教科でも図や表、グラフ、資料を読み取る力が必要です。

⇒対策：読み取る観点の明確化

身近な場面から興味や気付きから生じた疑問を解決できるような問題場面を設定

5. (5年)粘り強く取り組む姿勢

アンケートの「終わるまでに何か月もかかる計画に、最後までずっと興味をもち続けるのは難しい」「新しいアイデアや計画を思いつくと、前のアイデアや計画から関心がなくなる」という質問に対し、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合が大阪府より高い結果となりました。

「課題に向き合い続ける力」の弱さは、北小の児童の課題です。難しい問題などに取り組んでいくための素地を形成していくことが必要だと考えられます。

うまくいかなかったときに対応できる選択肢をたくさん持たせるために、学習活動や学校行事を通して何かをやり遂げる経験を引き続き積ませたいと思います。

【5・6年生の生活面における良い点】

1. 「学校に行くのは楽しい」と思っている児童が多い

アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に、「楽しい」と回答した児童が多くいました。「学校が楽しい」と思う要因は、「授業が楽しい」、「友達と遊ぶのが楽しい」、「給食がおいしい」、「学校行事が楽しい」など、人によってさまざまです。それぞれが「楽しい」と感じる要因を教職員で増やしていき、「学校が楽しい」と思う子どもたちを育てていきたいと思えます。

2. 「将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたい」という向上心

アンケートの「将来の夢や目標を持っていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思えますか」の質問に、多くの児童が肯定的に回答しました。

これまでのキャリア教育や総合学習の取り組み、学校行事などが、子どもたちが夢を抱く要因となっていると考えられます。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか」の質問に肯定的に回答した児童が多く、自信につながっていると思われます。これからも、一人ひとりが活躍できる場面、認められる場面、ほめられる場面を意識して取り組んでいきたいと思えます。

3. (5年) 気持ちを素直に表現する傾向

すくすくウォッチのアンケートでは、「つらい気持ちになることがあった時は、態度や表情に出す」という質問において肯定的な回答が多くありました。自分の気持ちを素直に出せるという良い面がある一方、感情を出すことでトラブルになってしまうこともあります。研究テーマの「人と人とのつながりから学びを深め、自分や他人を大切にする学校」を目指して、互いの思いをつなげられるよう、学級活動や学校行事を通して、集団づくりをすすめていきます。

4. 家庭生活に積極的に関わろうとする態度

アンケートの「料理や買い物、食器洗いなどの家庭の仕事をしている」の質問では、多くの児童が肯定的に回答しました。ご家庭で、家族の一員として普段から自分の仕事を位置づけられるよう意識されている成果が現れました。

これからも引き続き家庭の協力を仰ぎながら、学校側も家庭や学校、地域に根ざす子どもたちを育て見守っていききたいと思えます。



【5・6年生の生活面における課題点】

1. (5年) 生活リズムの夜型傾向

午後10時より前に就寝する割合が、大阪府の割合と比較して低い傾向となりました。夜早く寝て、朝早く起きられるようにするのも、学習を支えていく大切な生活習慣を形成していくうえで、大切な点です。家庭と連携しながら、生活リズムを整えられるよう働きかけていくことが重要です。

2. (6年) 自己肯定感・自己有用感の低さ

6年生のアンケートの「自分にはよいところがある」という質問に対して、肯定的な回答の割合が低い結果となりました。実際にはできていることでも、「自分はできていない」ととらえてしまうことが考えられます。また「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問では、肯定的な回答が全国・大阪府を下回る結果となりました。

昨年のアンケートでも、クラスメイトや家族との関わりにおいて課題が見られました。思春期に入り、自分に対する人の目が気になったり、相手の言動が気になったり、家族との距離が出始めているのかもしれない。

クラスメイトをつなぐために、学級活動や学校行事を通して、互いに認め合える取り組みを行っていきたいと思います。



【最後に】

子どもたちの「学習に対する前向きな姿勢」を持続していけるような授業内容、授業展開を実行していき、課題に挙げられた「図や表、グラフ、資料を読み取る力」や、読み取ったことを「短くまとめて書く力」「文章で説明する力」を高めていきたいと思います。また、引き続き ICT 機器を効果的に取り入れて、「工夫して相手に伝える力」を養っていきたいと思います。

アンケートの結果から課題に挙げられた「課題に向き合い続ける力」や「クラスメイトとの関わり」を高めるために、友だち以外の児童ともつながれる活動や一人ひとりが活躍でき、承認される機会を設け、何かをやり遂げる成功体験を積み重ねていきたいと思います。

「将来の夢や目標を持ち、人の役に立つ人間になりたい」と多くの児童が回答したこの思いを大切に、教職員全体で子どもたちの成長を支えていきたいと思います。

今回の結果についての概要は、「北小っ子のいいところ」として、5,6年生の児童には授業中に、全校生には児童朝会で伝えていきます。

